

2006 年 10 月 16 日 発行
2023 年 7 月 31 日 改訂

安全データシート

1. 化学物質及び会社情報

化学物質等の名称	485 用酸化防止剤
品番	485-026B
会社名	白光株式会社
住所	大阪市浪速区塩草 2 丁目 4 番 5 号
担当部門	営業部
電話番号	06-6561-1574
FAX 番号	06-6568-0821
メールアドレス	cs@hakko.com
推奨用途	はんだ槽の酸化防止剤

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	爆発物	分類できない
	可燃性ガス	区分に該当しない (分類対象外)
	エアゾール	区分に該当しない (分類対象外)
	酸化性ガス	区分に該当しない (分類対象外)
	高压ガス	区分に該当しない (分類対象外)
	引火性液体	区分に該当しない (分類対象外)
	可燃性固体	分類できない
	自己反応性化学品	分類できない
	自然発火性液体	区分に該当しない (分類対象外)
	自然発火性固体	分類できない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類できない
	酸化性液体	区分に該当しない (分類対象外)
	酸化性固体	分類できない
	有機過酸化物	分類できない
	金属腐食性物質	分類できない
	鈍性化爆発物	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性 (経口)	分類できない
	急性毒性 (経皮)	分類できない
	急性毒性 (吸入: 気体)	区分に該当しない (分類対象外)
	急性毒性 (吸入: 蒸気)	分類できない
	急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2B
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない

環境に対する有害性	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	生殖毒性・授乳影響	分類できない
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分3：気道刺激性
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	分類できない
	誤えん有害性	分類できない
	水生環境有害性 短期（急性）	分類できない
	水生環境有害性 長期（慢性）	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



警告

注意喚起語

危険有害性情報

眼刺激

呼吸器への刺激のおそれ

注意書き

安全対策

取り扱い後は手をよく洗うこと。

粉じん、ヒューム、蒸気、の吸入を避けること。

屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

応急措置

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。

次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合は医師の診断、手当てを受けること。

吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

保管

気分が悪い時は医師に連絡すること。

換気の良い場所で保管すること。

廃棄

容器を密閉しておくこと。

地方、国の規則に従って廃棄すること。

3.組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

成分	含有量 %	CAS 番号
パラフィンワックス	75~85%	8002-74-2
微晶ロウ	15~25%	63231-60-7

4.応急措置

固体で取扱う場合には特に問題がないが、溶融時の取扱いには火傷などの傷害を生じる可能性がある
ので注意を要する。



(溶解時の場合)	
吸入した場合	加熱熔融状態の製品から発生するヒューム、蒸気を吸入してのど等に刺激を受けたり、不快感や頭痛の症状が出た場合には、直ちに被災者を空気の新鮮な場所に移動させ、安静にする。 速やかに医師の手当てを受ける。 被災者の衣類等が汚染されているときは、できるだけ早く取り除く。
皮膚に付着した場合	加熱熔融状態の製品が付着した場合、直ちに大量の水で冷却した後火傷に対する手当てを行なう。 この時皮膚についた製品を剥がさないようにすること。 その後医師の手当てを受ける。
眼に入った場合	加熱熔融状態の場合、火傷の可能性があるため、直ちに大量の清浄な水で洗眼・冷却した後医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	無理に吐き出させずに、直ちに医師の手当てを受ける。 但し喉に詰まり呼吸困難に陥った場合は、早急に吐かせ医師の診断を受ける。
(個体の場合)	
皮膚に付着した場合	特に問題はないが、皮膚アレルギー性の作業者が皮膚に異常を認めた場合は医師の診断を受ける。
眼に入った場合	塵が入った場合と同様、こすらず大量の水で洗眼し、症状に応じて医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	溶解時の場合と同じ処置を行う。

5.火災時の措置

適切な消火剤	土、砂、ドライケミカル、炭酸ガス
使ってはならない消火剤	棒状放水
火災時の特有の危険有害性	熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。 激しく加熱すると燃焼する。 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消化方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣（耐熱性）を着用する。 消火作業は可能な限り風上から行う。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	関係者以外は近づけない。 適切な保護具を着用する。 こぼれた場所はすべりやすいため注意する。
環境に対する注意事項	漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。 下水、排水中に流してはならない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	掃き集めて、容器に回収する。 乾燥した土、砂、不燃材料に吸収もしくは覆って容器に移す。
二次災害の防止策	着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。 全ての発火源を取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）

7. 取扱い及び保管上の注意

3,000 kg 以上の量を貯蔵又は取り扱う場合には、市町村条例に定められた基準を満足すること。

取扱い

技術的対策

「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体換気

排気、換気設備を設ける。

安全取扱注意事項

酸化防止剤としての用途以外には使用しない。

火気厳禁

取扱中は飲食、喫煙してはならない。

粉じん、ヒューム、蒸気、の吸入を避ける。

屋外又は換気の良い場所でだけ使用する。

眼に入らないようにする。

接触回避

「10.安定性及び反応性」参照。

衛生対策

作業後、手をよく洗い、うがいをしてから喫煙・飲食等を行う。

保管

安全な保管条件

日光から遮断し、換気の良い場所で保管する。

避けるべき保管条件

強酸化剤と一緒に貯蔵しない。

異物混入の無いこと。

安全な容器包装材料

適切な容器包装材料

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度 日本産業衛生学会

ACGIH 勧告値

設定されていない。

管理濃度

TLV-TWA 2mg/m³ ヒュームとして。

(安衛法 作業環境評価基準)

設定されていない。

設備対策

取扱い場所に排気、換気装置、安全シャワー、手洗設備等を設置する。

保護具

呼吸用保護具

防塵保護マスクまたはホースマスク。

手の保護具

不浸透性保護手袋。

眼、顔面の保護具

側板付保護眼鏡またはゴーグル型保護眼鏡。

皮膚及び身体の保護具

保護長靴、保護前掛け等。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

ろう状固体

色

淡黄色

臭い

わずかな臭気あり

融点／凝固点

70℃

沸点又は初留点及び沸点範囲

データなし

可燃性

可燃性固体

爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	該当しない
引火点	270℃以上
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	該当しない
動粘性率	該当しない
溶解度	不溶
n-オクタノール／水分配係数 (log 値)	log Pow > 6
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	0.78 g/cm ³ , at 80℃
相対ガス密度	該当しない
粒子特性	データなし

10.安定性及び反応性

反応性	自己反応性なし。
化学的安定性	通常の条件下で安定。
危険有害反応可能性	酸化剤、強酸類と反応する。
避けるべき条件	長時間加熱、火炎、発火源
混触危険物質	酸化剤、強酸類
危険有害な分解生成物	データなし

11.有害性情報

急性毒性	
経口	分類できない
経皮	分類できない
皮膚腐食性／刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2B
呼吸器感作性又は皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分 3 (気道刺激性)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない
誤えん有害性	分類できない

12.環境影響情報

水生環境有害性 短期 (急性)	分類できない
水生環境有害性 長期 (慢性)	分類できない
生態毒性	データなし
残留性・分解性	微生物による分解性あり
生態蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	分類できない

13.廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた廃棄物処理業者に委託して処理する。

14.輸送上の注意

国際規制

輸送又は輸送手段に関する
特別の安全対策

国連番号・品名・国連分類・容器等級：該当しない

3,000 kg を超えて移送する場合にはイエローカードを携帯すること。

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

重量物を上積みしない。

15.適用法令

労働安全衛生法(安衛法)

ラベル表示・SDS 交付義務対象物質（別表第 9 の 170)

【固形パラフィン】

化学物質排出把握管理促進法
(PRTR 法)

該当しない

毒物及び劇物取締法(毒劇法)

該当しない

消防法

指定可燃物（可燃性固体類）

水質汚濁防止法

日当たり平均的排水量 50m³ 以上の特定事業場に適用される排水
基準生活環境項目

ノルマルヘキサン抽出物質含有量（鉱油類含有量）：5 mg/L

下水道法

鉱油類排出規制（5 mg/L 許容濃度）

廃棄物の処理及び清掃に関する
法律

産業廃棄物規制（拡散、流出の禁止）

16.その他の情報

出典

製造事業者の SDS

本データは現時点で入手できる情報、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。記載内容は通常の使用状態におけるものであり、危険有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、使用におかれましては、用途、用法に適した安全対策を実施の上、ご使用下さい。

改訂履歴

改訂日	内容
2023 年 7 月 31 日	JIS Z 7252(2019)、JIS Z 7253(2019)に対応。 2021 年 10 月 20 日公布 化管法政令改正に対応。